**野宿生活者(ホームレス)問題/対策を求める声高まる**

　区内・長居公園の中に野宿生活者(ホームレス)のテントが230以上張られており、さらに増える傾向にあるといわれています。野宿生活者が今日のように増えた原因は、経済不況による企業の倒産とかリストラによって仕事や住宅を失った人達が増えたことに因るといわれ、政府の緊急な対策が強く望まれています。

　野宿生活者は、公園とか高架下、空地などにテントを張って生活していますが、田辺地区でも3月時点の調査で8名が報告されており、桃ヵ池公園でもかなりの野宿者がいます。野宿者が増えることにより環境、衛生、犯罪、人権などの諸問題が発生しており、公園附近の住民からは危険で公園へ行けない、という苦情が多く出ています。

　同会や大阪市議会でも野宿者問題で論議されていますが、政府にしろ大阪市にしろ「手の施しようがない」といったところのようで簡単には解決できそうにありません。長居公園周辺の五つの連合町会では、このほど2万5千人の署名を添えて大阪市へ要望書を提出(別掲)しましたが、田辺連合町会でも3月度の町会長会議でこの問題を討議、解決へむけて地域が結束して努力していくことといたしました。

**要望書(写)**

**(長居公園周辺5連合町会が大阪市長に提出)**

　私達は大阪市が整備し、管理運営されている都市計画公園「長居公園」に隣接している地域住民です。

　昨年来より野宿者(ホームレス)が急激に増加し、青いテントを当該公園内に不法に張り、その数が230以上になっております。

　公園は私達市民の憩いの場所として、多くの市民がジョギングや散歩など幅広く利用し、市民の健康づくりコミュニティづくりの増進に寄与するとともに、四季折々の草花を楽しませてくれる貴重な空間でもあります。

　さらに、災害時の避難場所にも指定されている重要な施設であると考えております。私達地域の住民も朝、昼、夜を問わず、多くの方々が利用しておりましたが、野宿者の青いテントの増加と共に、いろいろな被害が発生しております。

　このような状況の中、公園利用者がだんだん減少し、地域としてもこのまま静観しておくわけにはまいりません。

　昨今、新聞を見ますと、野宿者の記事が数多く取り上げられておりますが、不況の中で仕事を失った、会社のリストラで住居もなくしたなど彼らがこのような状況になった経緯など、どちらかといえば野宿者側の内容であります。

　私達地域住民として、公園をこれまでのように安心して利用することはできないのでしようか。公園は子供から高齢者まで広範囲の方々が利用しており、野宿者が水飲み場やベンチを、占領したり、グループで酒盛りしたり、通行人をからかうなど不穏な状況下では安心して公園を通行し、トイレも利用することができません。

　私達は公園管理者である大阪市建設局にもその対応につきまして強く申し入れを致しておりますが、中々改善の兆しが見えません。

　最近の新聞によりますと、全国的な広がりとの記事も出ており、根本的な施策は国並びに府・市が各々責任をもって対応すべきであると考えておりますが、私達地域住民は施設管理者である大阪市として緊急対策を打ち出していただき、安心して公園を利用できるよう別紙の通り地域住民の署名を添付し要望いたしますので、なにとぞ迅速なる対応を切にお願い致します。

平成11年３月

大阪市長　磯村隆文様

**長居公園周辺の環境を守る会**

（関係５連合町会連名）

**「たなべ」第71号。平成11年５月１日。**

編集・発行

東住吉区田辺連合町会・田辺社会福祉協議会

田辺社会福祉協議会の三代目標（ふれあい・助けあい・励ましあい）